

証券コード
4568

決算補足資料
(2007年3月期 中間決算)



Daiichi-Sankyo

2006年11月

第一三共株式会社

[http:// www.daiichisankyo. co.jp](http://www.daiichisankyo.co.jp)



2006年度中間決算補足資料目次

[1]業績予想との差異	P1
[2]損益計算書推移	P2
[3]為替レート	P2
[4]グローバル製品売上高	P3
[5]海外売上高	P3
[6]セグメント別情報(事業別)	P4
[7]セグメント別情報(所在地別)	P4, 5
[8]国内の状況(主要製品売上高)	P6, 7
[9]海外の状況(主要製品売上高)	P8,9
[10]中間連結財務諸表の解説	P10～12
[11]主要経営指標	P13
[12]単元株式の所有者別状況	P13
[13]研究開発の状況	P14～19
[14]連結子会社一覧	P20, 21

2006.11.6



第一三共株式会社

コーポレートコミュニケーション部

MEMO



Daiichi-Sankyo

第一三共株式会社

平成19年3月期

中間決算短信 (連結)



平成18年11月6日

上場会社名 第一三共株式会社
コード番号 4568

上場取引所
本社所在都道府県

東証・大証・名証各第1部
東京都

(URL <http://www.daiichisankyo.co.jp>)

代 表 者 役職名 代表取締役社長 氏名 庄田 隆

問合せ先責任者 役職名 執行役員コーポレートコミュニケーション部長 氏名 高橋 利夫 TEL (03)6225-1126

決算取締役会開催日 平成18年11月6日

米国会計基準採用の有無 無

1. 平成18年9月中間期の連結業績 (平成18年4月1日～平成18年9月30日)

(1) 連結経営成績 (注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年9月中間期	485,842	7.5	78,353	△2.5	88,208	6.7
17年9月中間期	451,808	—	80,345	—	82,642	—
18年3月期	925,918		154,728		159,714	

	中間(当期)純利益		1株当たり中間(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益	
	百万円	%	円	銭	円	銭
18年9月中間期	66,886	35.3	91	75	—	—
17年9月中間期	49,450	—	67	48	67	46
18年3月期	87,692		119	49	119	47

(注) ①持分法投資損益 18年9月中間期 18百万円 17年9月中間期 △242百万円 18年3月期 △349百万円

②期中平均株式数(連結) 18年9月中間期 729,042,894株 17年9月中間期 732,796,367株 18年3月期 730,938,068株

③会計処理の方法の変更 無

④売上高、営業利益、経常利益、中間(当期)純利益におけるパーセント表示は、対前年中間期増減率であります。

(2) 連結財政状態 (注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
18年9月中間期	1,634,483	1,284,040	78.3	1,756 36
17年9月中間期	1,518,692	1,174,237	77.3	1,610 55
18年3月期	1,596,126	1,237,529	77.5	1,696 97

(注) 期末発行済株式数(連結) 18年9月中間期 729,027,291株 17年9月中間期 729,089,904株 18年3月期 729,052,296株

(3) 連結キャッシュ・フローの状況 (注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
18年9月中間期	69,708	△32,726	△23,150	415,838
17年9月中間期	66,237	△24,596	△37,253	359,235
18年3月期	132,759	△39,258	△50,106	400,967

(4) 連結範囲及び持分法の適用に関する事項

連結子会社数 54社 持分法適用非連結子会社数 0社 持分法適用関連会社数 3社

(5) 連結範囲及び持分法の適用の異動状況

連結(新規) 3社 (除外) 6社 持分法(新規) 0社 (除外) 2社

2. 平成19年3月期の連結業績予想 (平成18年4月1日～平成19年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	918,000	140,000	63,000

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 86円42銭

※ 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

なお、上記予想に関する事項は添付資料の10～11ページを参照して下さい。

1.業績予想との差異

2004年度実績

(単位：百万円)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	金額	前同比	金額	前同比	金額	前同比	金額	前同比
上半期 実績	449,127	—	74,178	—	76,248	—	48,727	—
三共G	289,988	-2.2%	49,159	-3.7%	50,073	-1.0%	37,965	59.3%
第一製薬G	159,139	-2.0%	25,019	-5.4%	26,175	-1.5%	10,762	-29.7%
第一三共単体	—	—	—	—	—	—	—	—
下半期 実績	467,236	—	66,809	—	63,578	—	36,729	—
三共G	297,842	-0.7%	35,766	-19.6%	32,433	-25.3%	10,317	-47.3%
第一製薬G	169,394	5.6%	31,043	57.8%	31,145	54.5%	26,412	132.7%
第一三共単体	—	—	—	—	—	—	—	—
年度 実績	916,364	—	140,988	—	139,826	—	85,457	—
三共G	587,830	-1.4%	84,925	-11.1%	82,506	-12.2%	48,282	11.2%
第一製薬G	328,534	1.8%	56,063	21.6%	57,320	22.7%	37,175	39.4%
第一三共単体	—	—	—	—	—	—	—	—

2005年度業績

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	金額	前同比	金額	前同比	金額	前同比	金額	前同比
上半期 実績	451,808	0.6%	80,345	8.3%	82,642	8.4%	49,450	1.5%
三共G	286,207	-1.3%	48,101	-2.2%	49,899	-0.3%	31,953	-15.8%
第一製薬G	165,667	4.1%	31,809	27.1%	32,818	25.4%	17,594	63.5%
第一三共単体	816	—	400	—	39	—	23	—
下半期 実績	474,110	1.5%	74,382	11.3%	77,071	21.2%	38,242	4.1%
三共G	293,742	-1.4%	30,234	-15.5%	32,265	-0.5%	18,674	81.0%
第一製薬G	180,780	6.7%	44,278	42.6%	45,111	44.8%	19,815	-25.0%
第一三共単体	75,840	—	73,548	—	73,552	—	73,522	—
年度 実績	925,918	1.0%	154,728	9.7%	159,714	14.2%	87,692	2.6%
三共G	579,949	-1.3%	78,335	-7.8%	82,164	-0.4%	50,627	4.9%
第一製薬G	346,447	5.5%	76,087	35.7%	77,929	36.0%	37,409	0.6%
第一三共単体	76,656	—	73,948	—	73,591	—	73,545	—

2006年度業績予想(5月公表)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	金額	前同比	金額	前同比	金額	前同比	金額	前同比
上半期 予想	470,000	4.0%	55,000	-31.5%	60,000	-27.4%	38,000	-23.2%
下半期 予想	395,000	-16.7%	53,000	-28.7%	55,000	-28.6%	9,000	-76.5%
年度 予想	865,000	-6.6%	108,000	-30.2%	115,000	-28.0%	47,000	-46.4%
対 '05年度 増減	-60,918		-46,728		-44,714		-40,692	

2006年度業績予想(7月公表)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	金額	前同比	金額	前同比	金額	前同比	金額	前同比
上半期 予想	480,000	6.2%	65,000	-19.1%	72,000	-12.9%	46,000	-7.0%
下半期 予想	395,000	-16.7%	53,000	-28.7%	55,000	-28.6%	9,000	-76.5%
年度 予想	875,000	-5.5%	118,000	-23.7%	127,000	-20.5%	55,000	-37.3%
対 当初公表(5月) 差異	10,000		10,000		12,000		8,000	

2006年度修正業績予想(今回公表)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	金額	前同比	金額	前同比	金額	前同比	金額	前同比
上半期 実績	485,842	7.5%	78,353	-2.5%	88,208	6.7%	66,886	35.3%
下半期 予想	432,158	-8.8%	48,647	-34.6%	51,792	-32.8%	-3,886	-110.2%
年度 予想	918,000	-0.9%	127,000	-17.9%	140,000	-12.3%	63,000	-28.2%
対当初公表(5月) 差異	53,000		19,000		25,000		16,000	
対当初公表(7月) 差異	43,000		9,000		13,000		8,000	
対 '05年度 増減	-7,918		-27,728		-19,714		-24,692	

2.損益計算書推移

(単位：百万円)

	2005年度（第1期）実績		2006年度（第2期）								
	上半期	年度	上半期実績			下半期予想			年度予想		
				対公表差異 (7月)	医薬品* 事業合計		対公表差異 (7月)	医薬品* 事業合計		対公表差異 (7月)	医薬品* 事業合計
前同	<0.6>	<1.0>	<7.5>			<-8.8>			<-0.9>		
売上高	451,808	925,918	485,842	5,842	433,502	432,158	37,158	396,498	918,000	43,000	830,000
売上原価	141,296	290,735	138,022	1,222	104,580	126,978	26,178	100,420	265,000	27,400	205,000
売上原価率	31.3%	31.4%	28.4%		24.1%	29.4%		25.3%	28.9%		24.7%
販売管理費及び 一般管理費	230,166	480,454	269,466	-8,734	252,792	256,534	15,334	249,208	526,000	6,600	502,000
販管費率	50.9%	51.9%	55.5%		58.3%	59.4%		62.9%	57.3%		60.5%
研究開発費	72,528	158,716	84,939	-2,061	81,655	85,061	5,061	83,345	170,000	3,000	165,000
研究開発費率	16.1%	17.1%	17.5%		18.8%	19.7%		21.0%	18.5%		19.9%
前同	<8.3>	<9.7>	<-2.5>			<-34.6>			<-17.9>		
営業利益	80,345	154,728	78,353	13,353	76,130	48,647	-4,353	46,870	127,000	9,000	123,000
営業利益率	17.8%	16.7%	16.1%		17.6%	11.3%		11.8%	13.8%		14.8%
前同	<8.4>	<14.2>	<6.7>			<-32.8>			<-12.3>		
経常利益	82,642	159,714	88,208	16,208	—	51,792	-3,208	—	140,000	13,000	—
経常利益率	18.3%	17.2%	18.2%		—	12.0%		—	15.3%		—
前同	<1.5>	<2.6>	<35.3>			<-110.2>			<-28.2>		
当期純利益	49,450	87,692	66,886	20,886	—	-3,886	-12,886	—	63,000	8,000	—
当期利益率	10.9%	9.5%	13.8%		—	-0.9%		—	6.9%		—

*2007年4月以降も継続する医薬品事業（継続事業）の合計値です。決算上の医薬品事業とは異なります。

2006年度決算に関する特記事項

- ・海外子会社第一三共Inc.（DSI）とルイトボルドファーマシューティカルズInc.（LPI）の2社については、決算期の変更（12月期→3月期決算）により、2006年度については2006年1月－2007年3月の15ヶ月決算となっております。従って両社の上半期は2006年1月－2006年9月の9ヶ月を計上しております。
その影響額（2006年1月－3月）は、売上高31,500百万円、営業利益9,000百万円、経常利益10,500百万円、純利益5,800百万円であります。
- ・当初予想（5月、7月）の前提として2007年3月を目処にグループ自立化を行う非医薬品事業については、年間売上高・利益の2分の1を上期のみ計上しておりました。（売上高58,000百万円、営業利益4,000百万円）
今回公表の下半期予想には、下期に株式譲渡が決定している非医薬品事業の会社や自立化に取り組んでいる会社の業績を折り込んでおります。
- ・2006年度よりゼファーマ、台湾三共、上海三共の3社が新規連結対象となっております。尚、ゼファーマ株式取得に関わる無形資産およびのれんの償却期間は10年となっております。

3.為替レート

	2005年度（第1期）実績		2006年度（第2期）					
	上半期	年度	上半期実績		下半期予想		年度予想	
				7月予想		7月予想		7月予想
円／USD（期中平均）	—	—	115.9	115	115	115	115	115
円／EUR（期中平均）	—	—	欧州子会社：142.2* 輸出：146*	135	145	135	145	135

*決算期が異なることによる（欧州子会社：1～6月、輸出は4～9月）

為替の影響

2006年度予想については、USDの為替変動（1ドルにつき1円の為替変動の影響）は売上高約23億円（営業利益約6億円）と見ております。
また、EURの影響（1Euroにつき1円の為替変動の影響）は売上高約4億円（営業利益軽微）と見ております。

4. グローバル製品売上高

(単位：百万円)

	2005年度				2006年度							前同比	
	上半期	下半期	年度	前同比	上半期			下半期		年度	前同比	上半期	年度
					(7月)	実績	対公表差異	(7月)	予想				
オルメサルタン* 【血圧降下剤】	41,100	51,300	92,400	102.6%	81,300	84,000	2,700	67,400	73,700	148,700	157,700	104.4%	70.7%
日本：オルメテック	10,000	15,600	25,600	184.4%	19,300	19,400	100	18,600	24,200	37,900	43,600	94.0%	70.3%
米国：ベニカー*	22,800	27,500	50,300	66.0%	51,300	53,300	2,000	36,600	36,100	87,900	89,400	133.8%	77.7%
欧州：オルメテック	7,200	7,500	14,700	153.4%	9,500	10,100	600	11,100	12,400	20,600	22,500	40.3%	53.1%
その他	1,100	700	1,800	260.0%	1,200	1,200	0	1,100	800	2,300	2,000	9.1%	11.1%
レボフロキサシン 【広範囲経口抗菌剤】	46,600	51,000	97,600	8.1%	45,800	46,200	400	50,100	50,600	95,900	96,800	-0.9%	-0.8%
日本：クラビット	23,600	26,600	50,200	6.6%	21,900	21,000	-900	25,700	26,000	47,600	47,000	-11.0%	-6.4%
輸出	14,900	14,600	29,500	21.9%	15,500	16,400	900	15,300	14,900	30,800	31,300	10.1%	6.1%
特許料	8,100	9,800	17,900	-5.8%	8,400	8,800	400	9,600	9,700	18,000	18,500	8.6%	3.4%
プラバスタチン 【高脂血症治療剤】	79,200	64,000	143,200	-14.1%	47,900	52,000	4,100	45,000	41,800	92,900	93,800	-34.3%	-34.5%
日本：メバロチン	38,500	36,700	75,200	-8.8%	33,500	34,800	1,300	33,700	32,400	67,200	67,200	-9.6%	-10.6%
欧州	2,400	3,100	5,500	-47.1%	2,500	3,300	800	2,700	2,500	5,200	5,800	37.5%	5.5%
輸出 等	38,300	24,200	62,500	-15.3%	11,900	13,900	2,000	8,600	6,900	20,500	20,800	-63.7%	-66.7%

*米国オルメサルタン（製品名：ベニカー）の2006年度上半期実績は2006年1月-2006年9月の9ヶ月の実績となっております。

5. 海外売上高

(単位：百万円)

	2005年度			2006年度		
	上半期	下半期	年度	上半期	下半期	年度予想
北米	93,994	88,620	182,614	134,959		
欧州	45,443	52,997	98,440	44,581		
その他*	14,192	12,018	26,210	15,096		
海外売上高	153,631	153,634	307,265	194,636	149,364	344,000
対売上高比率	34.0%	32.4%	33.2%	40.1%	34.6%	37.5%

*中国、韓国、タイ、台湾、ブラジル、ベネズエラ等

北米子会社第一三共Inc. (DSI) とルイトポルドファーマシューティカルズInc. (LPI) の2社については、決算期の変更（12月期→3月期決算）により、2006年度については2006年1月-2007年3月の15ヶ月決算となっております。
その影響額（2006年1月-3月）は、売上高31,500百万円であります。

6.セグメント別情報（事業別）

(単位：百万円)

			2005年度			2006年度
			上半期	下半期	通期	上半期
		国内医療用医薬品	208,266	223,135	431,401	215,236
		海外医療用医薬品	145,253	144,277	289,530	185,169
		ヘルスケア	14,794	13,106	27,900	24,592
	医薬品事業		385,415	399,251	784,666	441,381
	その他事業		66,393	74,858	141,251	44,460
	連結売上高		451,808	474,110	925,918	485,842
	医薬品事業		77,651	70,463	148,114	75,894
	その他事業		2,321	3,825	6,146	2,251
	連結営業利益		80,345	74,383	154,728	78,353

北米子会社第一三共Inc. (DSI) とルイトポルドファーマシューティカルズInc. (LPI) の2社については、決算期の変更（12月期→3月期決算）により、2006年度については2006年1月～2007年3月の15ヶ月決算となっております。その影響額（2006年1月～3月）は、売上高31,500百万円、営業利益9,000百万円であります。

7.セグメント別情報（所在地別）

(単位：百万円)

			2005年度			2006年度
			上半期	下半期	年度	上半期
			%			%
	日本	371,239	82.2%	381,554	752,793	341,976
	北米	53,741	11.9%	62,320	116,061	108,566
	欧州	21,345	4.7%	24,128	45,473	27,318
	その他	5,481	1.2%	6,108	11,589	7,980
連結売上高			451,808	474,110	925,918	485,842
	日本	69,124		61,125	130,249	71,642
	北米	11,916		13,541	25,457	33,880
	欧州	-1,924		1,239	-685	5,428
	その他	472		391	863	348
連結営業利益			80,345	74,383	154,728	78,353

北米子会社第一三共Inc. (DSI) とルイトポルドファーマシューティカルズInc. (LPI) の2社については、決算期の変更（12月期→3月期決算）により、2006年度については2006年1月～2007年3月の15ヶ月決算となっております。その影響額（2006年1月～3月）は、売上高31,500百万円、営業利益9,000百万円であります。

(ご参考)

(単位：百万円)

			2006年度					
			上半期予想 (7月)	上半期 実績	下半期予想 (7月)	修正下半期 予想	年度予想 (7月)	年度 予想
医薬品事業	国内医療用医薬品 (三共＋第一製薬)		203,900	215,236	212,100	210,764	416,000	426,000
	米州	輸出	22,000	24,298	22,800	22,302	44,800	46,600
		DSI＊	70,600	73,616	52,000	50,984	122,600	124,600
		LPI＊	35,500	34,962	16,300	21,338	51,800	56,300
	欧州	輸出	14,000	14,808	10,000	9,792	24,000	24,600
		DSE＊	25,800	26,698	23,800	24,302	49,600	51,000
	第一三共ヘルスケア ゼファーマ		26,000	24,592	28,200	25,108	54,200	49,700
	その他子会社計		26,200	19,292	27,800	31,908	54,000	51,200
	その他事業		56,000	52,340	2,000	35,660	58,000	88,000
連結売上高			480,000	485,842	395,000	432,158	875,000	918,000

DSI（第一三共 Inc.）、DSE（第一三共ヨーロッパGmbH）の営業部門における「売上高」のみ開示しております。
DSI、LPI（ルイトボルドファーマシューティカルズInc.）の2006年度決算につきましては、決算期の変更（12月決算→3月決算）により、
2006年1月～2007年3月の15ヶ月となっております。その影響額（2006年1月-3月）は、売上高31,500百万円であります。

8.国内の状況

主要医療用医薬品売上高

(単位：百万円)

		2005年度				2006年度(2007年3月期)						前同比	
		上半期	下半期	年度	前同比	上半期		対公表差異	下半期		年度予想	上半期	年度
						(7月)	実績		(7月)	修正計画	(7月)	修正計画	
循環器	メバロチン【高脂血症治療剤】	38,500	36,700	75,200	-8.8%	33,500	34,800	1,300	33,700	32,400	67,200	-9.6%	-10.6%
	パナルジン【抗血小板剤】	14,700	13,600	28,300	-1.0%	10,600	13,200	2,600	9,100	10,100	19,700	-10.2%	-17.7%
	アーチスト【高血圧治療剤】	9,100	9,100	18,200	16.7%	9,200	9,600	400	9,600	9,900	18,800	5.5%	7.1%
	サンリズム【不整脈治療剤】	6,000	5,900	11,900	7.2%	5,600	5,900	300	5,700	5,900	11,300	-1.7%	-0.8%
	エースコール【高血圧治療剤】	4,800	4,300	9,100	-16.5%	3,600	4,100	500	3,700	3,900	7,300	-14.6%	-12.1%
	オルメテック【高血圧治療剤】	10,000	15,600	25,600	184.4%	19,300	19,400	100	18,600	24,200	37,900	94.0%	70.3%
	コバシル【高血圧治療剤】	4,500	3,900	8,400	-3.4%	3,600	3,500	-100	3,500	3,300	7,100	-22.2%	-19.0%
	ハンプ【急性心不全剤】	3,900	4,700	8,600	22.9%	4,000	4,200	200	5,200	5,300	9,200	7.7%	10.5%
	カルブロック【高血圧治療剤】	3,000	3,400	6,400	113.3%	4,300	4,100	-200	4,900	5,000	9,200	36.7%	42.2%
	リバロ【高脂血症治療剤】	2,000	2,100	4,100	95.2%	2,500	2,400	-100	3,100	3,300	5,600	20.0%	39.0%
糖代謝	ファスティック【血糖降下剤】	2,700	2,600	5,300	-1.9%	2,800	2,700	-100	2,900	2,700	5,700	0.0%	1.9%
感染症	クラビット【広範囲経口抗菌剤】	23,600	26,600	50,200	6.6%	21,900	21,000	-900	25,700	26,000	47,600	-11.0%	-6.4%
	カルベニン【抗生剤】	3,400	2,900	6,300	-19.2%	3,300	2,700	-600	3,100	2,300	6,400	-20.6%	-20.6%
	パナン【抗生剤】	2,000	2,400	4,400	-21.4%	2,100	1,900	-200	2,100	2,400	4,200	-5.0%	-2.3%
癌	トボテシン注【抗悪性腫瘍剤】	2,500	2,300	4,800	23.1%	2,650	2,600	-50	2,900	2,600	5,550	4.0%	8.3%
免疫・アレルギー	ジルテック【抗アレルギー剤】	5,600	7,000	12,600	10.5%	5,150	5,100	-50	6,100	6,600	11,250	-8.9%	-7.1%
骨・関節	ロキソニン【鎮痛抗炎症解熱剤】	14,300	14,700	29,000	1.4%	14,100	15,100	1,000	14,400	15,500	28,500	5.6%	5.5%
	モービック【消炎治療剤】	5,400	5,200	10,600	24.7%	5,500	5,400	-100	5,600	5,600	11,100	0.0%	3.8%
	ミルタックス【経皮鎮痛消炎剤】	3,100	2,900	6,000	1.7%	2,900	2,900	0	2,600	2,600	5,500	-6.5%	-8.3%
その他	オムニパーク【造影剤】	18,000	16,700	34,700	1.5%	15,500	16,400	900	14,100	14,200	29,600	-8.9%	-11.8%
	クレメジン【慢性腎不全用剤】	6,600	6,400	13,000	-4.4%	6,100	6,000	-100	6,300	6,400	12,400	-9.1%	-4.6%
	ザンタック【消化性潰瘍治療剤】	3,900	3,500	7,400	-12.9%	3,400	3,200	-200	3,200	2,900	6,600	-17.9%	-17.6%
	オムニスキャン【MRI用造影剤】	2,800	2,600	5,400	5.9%	2,600	2,700	100	2,500	2,500	5,100	-3.6%	-3.7%
	エボザック【口腔乾燥症状改善剤】	700	600	1,300	8.3%	700	700	0	750	700	1,450	0.0%	7.7%

主要製品輸出売上高

(単位：百万円)

		2005年度				2006年度(2007年3月期)						前同比	
		上半期	下半期	年度	前同比	上半期		対公表差異	下半期		年度予想	上半期	年度
						(7月)	実績		(7月)	修正計画	(7月)	修正計画	
ブラバスタチン【高脂血症治療剤】		38,600	25,900	64,500	-16.2%	12,000	14,800	2,800	9,000	7,300	21,000	-61.7%	-65.7%
レボフロキサシン【広範囲経口抗菌剤】		14,900	14,600	29,500	21.9%	15,500	16,400	900	15,300	14,900	30,800	10.1%	6.1%

主要ヘルスケア製品売上高

(単位：百万円)

		2005年度				2006年度(2007年3月期)						前同比	
		上半期	下半期	年度	前同比	上半期		対公表差異	下半期		年度予想	上半期	年度
						(7月)	実績		(7月)	修正計画	(7月)	修正計画	
ヘルスケア売上高(合計)		14,700	13,100	27,900	-5.7%	26,000	24,500	-1,500	28,200	25,200	54,200	—	—
ルル類		4,700	4,700	9,400	9.3%	5,100	5,300	200	5,100	5,400	10,200	12.9%	15.6%
新三共胃腸薬類**		1,600	1,700	3,300	10.0%	1,500	1,400	-100	1,500	1,500	3,000	4.2%	1.5%
カロヤン類		1,100	1,000	2,100	-44.7%	1,200	1,200	0	1,200	1,000	2,400	3.1%	6.4%
リゲイン類		1,400	990	2,390	1.7%	1,500	1,200	-300	1,000	900	2,500	-21.4%	-12.1%
パテックス類		1,100	900	2,000	-4.8%	1,000	1,100	100	1,300	1,100	2,300	1.7%	11.5%
ラミシールAT*		1,100	1,500	2,600	23.8%	1,400	1,100	-300	1,100	—	2,500	-7.1%	—
ガスター10		—	—	—	—	2,000	1,800	-200	2,200	2,200	4,200	—	—
ブレコール		—	—	—	—	1,000	1,000	0	1,500	1,400	2,500	—	—
カコナール		—	—	—	—	800	800	0	1,200	1,300	2,000	—	—
マキロン		—	—	—	—	1,200	1,100	-100	600	600	1,800	—	—

*ラミシールATの販売に関する契約を12月末で終了

**2006年度より新三共胃腸薬類内の集計品目を変更。前同比は前年度売上を新しい集計品目に変更し、換算しております。

主要医療用医薬品売上高

(単位：百万円)

		2005年度	2006年度		備考
		上半期	上半期		
			実績	増減	
循環器	メバロチン【高脂血症治療剤】	38,500	34,800	-3,700	薬価改定（▲9.7％）の影響に加え、後発品の処方拡大により減少。本年4月から処方箋様式が変更され、更に厳しい市場環境の中、日本人を対象とした大規模臨床試験MEGAスタディの活用により、新規患者を獲得。
	パナルジン【抗血小板剤】	14,700	13,200	-1,500	抗血栓薬の世界標準であるプラビックスが5月に日本において発売されたが、継続した安全性対策の実施やステント療法による新規処方量が拡大し数量ベースでは前年並みを維持。
	アーチスト【高血圧治療剤】	9,100	9,600	500	β遮断薬で市場シェアNo. 1 処方案に成長。慢性心不全、高血圧症、狭心症全ての適応症における処方拡大を目指した対策が奏効し前期比アップ。
	サンリズム【不整脈治療剤】	6,000	5,900	-100	心房細動薬物治療における第一選択薬としての処方定着化を目指したプロモーションを展開し、数量ベースで前年比アップ。
	エースコール【高血圧治療剤】	4,800	4,100	-700	ACE阻害剤市場縮小（金額ベース 前年比▲15％）の影響を受け縮小傾向。
	オルメテック【高血圧治療剤】	10,000	19,400	9,400	ARB市場は昨年に引き続き拡大。競合他社との競争が激化する中、製品特性を訴求したプロモーションの強化により処方が拡大。
	コバシル【高血圧治療剤】	4,500	3,500	-1,000	ACE阻害剤市場縮小（金額ベース 前年比▲15％）の影響を受け縮小傾向。
	ハンブ【急性心不全剤】	3,900	4,200	300	急性心不全治療薬シェアNo. 1。循環器内科領域のみならず、心臓外科・麻酔科領域でも処方を拡大し前年比アップ。
	カルブロック【高血圧治療剤】	3,000	4,100	1,100	他剤に対し臓器保護作用、腎臓保護作用における優位性の訴求が奏効し前年比アップ。
	リバロ【高脂血症治療剤】	2,000	2,400	400	安全性の高さを訴求し、ストロングスタテンとしてのポジションを確立。
糖代謝	ファスティック【血糖降下剤】	2,700	2,700	0	04年に競合品が参入しているが、順調に推移。本年90mgの小型錠の発売も寄与。
感染症	クラビット【広範囲経口抗菌剤】	23,600	21,000	-2,600	薬価改定（▲8％）の影響と在庫調整の影響もあり、数量ベースで若干減少。
	カルベニン【抗生剤】	3,400	2,700	-700	
	バナン【抗生剤】	2,000	1,900	-100	
癌	トボテシン注【抗悪性腫瘍剤】	2,500	2,600	100	癌領域専門MRを増員。専門性の高いMRの配置と多くのエビデンスの活用により、主に消化器癌領域での処方が拡大。
免疫・アレルギー	ジルテック【抗アレルギー剤】	5,600	5,100	-500	
骨・関節	ロキソニン【鎮痛抗炎症解熱剤】	14,300	15,100	800	パップ剤を本年5月に新発売。パップ剤の寄与により処方拡大。
	モービック【消炎治療剤】	5,400	5,400	0	経口消炎鎮痛剤市場は若干縮小（4-9月）。慢性疼痛を中心にシェアを維持。
	ミルタックス【経皮鎮痛消炎剤】	3,100	2,900	-200	
その他	オムニパーク【造影剤】	18,000	16,400	-1,600	包括化医療の推進や後発品の攻勢による影響が大きい中、後発品にない用量サイズを用意し、適正濃度、適正容量の普及に努めたことが奏効し予算超過。
	クレメジン【慢性腎不全用剤】	6,600	6,000	-600	腎疾患早期患者における有用性の訴求により数量ベースアップ。
	ザンタック【消化性潰瘍治療剤】	3,900	3,200	-700	
	オムニスキャン【MRI用造影剤】	2,800	2,700	-100	
	エボザック【口腔乾燥症状改善剤】	700	700	0	

主要製品輸出売上高

(単位：百万円)

	2005年度	2006年度		備考
	上半期	上半期		
		実績	増減	
ブラバスタチン【高脂血症治療剤】	38,600	14,800	-23,800	本年4月に米国における特許が切れ大幅に減少。欧州最大の需要国フランスでも8月に特許切れ。
レボフロキサシン【広範囲経口抗菌剤】	14,900	16,400	1,500	米国における現地消化は順調に推移。欧州は当初主要国の薬価引き下げの影響を受けたが、諸対策の実施により回復。

主要ヘルスケア製品売上高

(単位：百万円)

	2005年度	2006年度		備考
	上半期	上半期		
		実績	増減	
ヘルスケア売上高（合計）	14,700	24,500	9,800	ゼファーマの寄与分101億円。第一三共ヘルスケア、ゼファーマとも全体売上としては、前年比マイナスであるが、店頭消化ベースでは4月以降、連続で前年比が改善しており、回復傾向。
ルル類	4,700	5,300	600	ルルブランドの主力製品「新ルルA錠」が堅調に推移した他、新製品「ルルAタックIB」の発売が売上に貢献。
新三共胃腸薬類	1,600	1,400	-200	
カロヤン類	1,100	1,200	100	今年6月に発売した新製品「カロヤンジェローション1」の寄与により微増ながら前年比アップ。
リゲイン類	1,400	1,200	-200	ドリンク剤市場が低調に推移している中、競合品との競争が激化している低価格ドリンクが不振等によりダウン。
パテックス類	1,100	1,100	0	通常の用量を増量した愛用者感謝品等が寄与し、前年並みの売上を維持。
ラミシールAT	1,100	1,100	0	
ガスター10	—	1,800	—	5月に散剤の包装・容量の変更を行うとともに、得意先向けの服薬指導キャンペーンを実施。前年売上を維持。
プレコール	—	1,000	—	6月に主力の「プレコール持続性カプセル」を発売。夏かぜ対策の実施等により前年比売上アップ。
カコナール	—	800	—	夏かぜ対策や期間限定キャンペーンの実施により好調に推移。
マキロン	—	1,100	—	

9.海外の状況

米国子会社-主要製品売上高

(単位：百万円)

	2005年度				2006年度(2007年3月期)							前同比	
	上半期	下半期	年度		上半期		対公表差異	下半期		年度予想		上半期	年度
				前同比	(7月)	実績		(7月)	修正計画	(7月)	修正計画		
第一三共 Inc. (DSI)													
ベニカー【高血圧治療剤】	22,800	27,500	50,300	66.0%	51,300	53,300	2,000	36,600	36,100	87,900	89,400	133.8%	77.7%
(mil USD)	(215)	(241)	(456)	(62.9%)	(446)	(460)	(14)	(319)	(313)	(765)	(773)	(114.0%)	(69.5%)
ウェルコール【高脂血症治療剤】	7,400	7,400	14,800	17.5%	12,300	13,100	800	8,400	8,600	20,700	21,700	77.0%	46.6%
(mil USD)	(69)	(65)	(134)	(15.5%)	(107)	(113)	(6)	(73)	(75)	(180)	(188)	(63.8%)	(40.3%)
フロキシントリック*【耳科用抗菌剤】	4,500	3,600	8,100	6.6%	4,000	4,500	500	3,800	3,300	7,800	7,800	40.1%	26.5%
(mil USD)	(40)	(31)	(71)	(±0.0%)	(34)	(39)	(5)	(33)	(28)	(67)	(67)	(32.6%)	(24.1%)
エボザック*【口腔乾燥症状改善剤】	1,200	1,600	2,800	21.7%	1,300	1,300	0	1,400	1,400	2,700	2,700	34.2%	12.3%
(mil USD)	(10)	(15)	(25)	(13.6%)	(11)	(11)	(0)	(12)	(12)	(23)	(23)	(26.9%)	(9.5%)
ルイトン* ルド* ファーマシューティカल्ズ Inc. (LPI)													
ヴェノファー【貧血治療剤】	10,300	12,300	22,600	16.5%	20,800	20,600	-200	8,200	13,100	29,000	33,700	100.0%	49.1%
(mil USD)	(97)	(108)	(205)	(13.9%)	(181)	(178)	(-3)	(70)	(113)	(251)	(291)	(83.5%)	(42.0%)

*2006年度より純売上高に変更しております。2006年度「前同比」については、前年度売上（正味売上高）を純売に換算し、算出しています。

ベニカー、ウェルコール、ヴェノファーの第1四半期実績は2006年1月-2006年9月の9ヶ月の実績となっております。
ご参考（1-3月の実績）： ベニカー 15,600百万円(\$135mil)、ウェルコール 3,900百万円(\$33mil)、ヴェノファー 6,800百万円(\$59mil)

欧州子会社-主要製品売上高

(単位：百万円)

	2005年度				2006年度(2007年3月期)							前同比	
	上半期	下半期	年度		上半期		対公表差異	下半期		年度予想		上半期	年度
				前同比	(7月)	実績		(7月)	修正計画	(7月)	修正計画		
第一三共ヨーロッパGmbH (DSE)													
オルメテック【高血圧治療剤】	7,200	7,500	14,700	153.4%	9,500	10,100	600	11,100	12,400	20,600	22,500	40.3%	53.1%
(mil EURO)	(53)	(54)	(107)	(148.8%)	(70)	(71)	(1)	(82)	(86)	(152)	(157)	(34.0%)	(46.7%)
メバロチン【高脂血症治療剤】	2,400	3,100	5,500	-47.1%	2,500	3,300	800	2,700	2,500	5,200	5,800	37.5%	5.5%
(mil EURO)	(18)	(22)	(40)	(-48.7%)	(18)	(23)	(5)	(22)	(19)	(40)	(42)	(27.8%)	(5.0%)

米国子会社-主要製品売上高

(単位：百万円)

		2005年度	2006年度		備考
		上半期	上半期		
			実績	増減	
第一三共 I n c. (DSI)					
	ベニカー【高血圧治療剤】 (mil USD)	22,800 (215)	53,300 (460)	30,500 (245)	決算期変更による9ヶ月の実績。市場の拡大（約10％程度）に加え、統合ならびに営業力強化（営業担当者の増加）により、大きく伸長。特に配合剤の処方が順調に推移。
	ウェルコール【高脂血症治療剤】 (mil USD)	7,400 (69)	13,100 (113)	5,700 (44)	
	フロキシノティック*【耳科用抗菌剤】 (mil USD)	4,500 (40)	4,500 (39)	— —	現地消化が順調に推移。統合ならびに営業力強化により、純売ベースと比較すると約30％以上の伸長。
	エボザック*【口腔乾燥症状改善剤】 (mil USD)	1,200 (10)	1,300 (11)	— —	
ライオン・ファーマシューティカルズ I n c. (LPI)					
	ヴェノファー【貧血治療剤】 (mil USD)	10,300 (97)	20,600 (178)	10,300 (81)	決算期変更による9ヶ月の実績。市場が拡大し、販促活動を強化し競合品に対して優位な情勢で、シェアアップ。

*2006年度より純売上高に変更しております。

ベニカー、ウェルコール、ヴェノファーの第1四半期実績は2006年1月-2006年9月の9ヶ月の実績となっております。

ご参考(1-3月の実績)：ベニカー 15,600百万円(\$135mil)、ウェルコール 3,900百万円(\$33mil)、ヴェノファー 6,800百万円(\$59mil)

欧州子会社-主要製品売上高

(単位：百万円)

		2005年度	2006年度		備考
		上半期	上半期		
			実績	増減	
第一三共ヨーロッパGmbH (DSE)					
	オルメテック【高血圧治療剤】 (mil EURO)	7,200 (53)	10,100 (71)	2,900 (18)	各国での配合剤発売により売上が増加。主要国（ドイツ、イギリス等）においてのシェア拡大。
	メバロチン【高脂血症治療剤】 (mil EURO)	2,400 (18)	3,300 (23)	900 (5)	
各国で特許切れが相次ぐ。一部の特許切れ国においてバルクをBMS社以外の提携先に供給。					

10.中間連結財務諸表の解説

貸借対照表

区分	前連結会計年度 (平成18年3月31日)		構成比 (%)	当中間連結会計期間末 (平成18年9月30日)		構成比 (%)	対前同	増減内訳
	金額 (百万円)			金額 (百万円)				
(資産の部)								
I 流動資産								
1. 現金及び預金		223,979		208,480		-15,499		
2. 受取手形及び売掛金		240,173		231,543		-8,630		
3. 有価証券		274,510		318,548		44,038		
4. 抵当証券		16,500		15,000		-1,500		
5. たな卸資産		121,694		117,692		-4,002		
6. 繰延税金資産		40,911		57,606		16,695		
7. その他		41,313		26,729		-14,584		
貸倒引当金		△599		△682		-83		
流動資産合計		958,483	60.1	974,918	59.6	16,434		
II 固定資産								
1. 有形固定資産※1		289,712		275,419		-14,293	※1 有形固定資産	-14,293
(1) 建物及び構築物	164,047			156,568		-7,478	・ 子会社の連結除外による減少	-13,000
(2) 機械装置及び運搬具	47,888			48,504		616		
(3) 土地	48,892			44,459		-4,432		
(4) 建設仮勘定	10,010			6,722		-3,288		
(5) その他	18,874		18.1	19,164	16.9	289		
2. 無形固定資産		36,166		68,358		32,191		
(1) 連結調整勘定	9,788			—		-9,788		
(2) のれん※2	—			20,209		20,209	※2 のれん	
(3) その他	26,378		2.3	48,149	4.2	21,770	・ ゼファーマ株式取得に伴うのれん (10年償却)	
3. 投資その他の資産		311,763		315,787		4,023		
(1) 投資有価証券※3	256,338			261,787		5,449	※3 投資有価証券	+5,449
(2) 長期貸付金	6,154			5,748		-405	・ 米国子会社LPIの運用資金が増加	+3,500
(3) 前払年金費用	17,307			16,917		-390		
(4) 繰延税金資産	7,403			9,428		2,025		
(5) その他	25,090			22,730		-2,359		
貸倒引当金	△529		19.5	△825	19.3	-295		
固定資産合計		637,643	39.9	659,565	40.4	21,921		
資産合計		1,596,126	100.0	1,634,483	100.0	38,356		

区分	前連結会計年度 (平成18年3月31日)		当中間連結会計期間末 (平成18年9月30日)		対前同	増減内訳
	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)		
(負債の部)						
I 流動負債						
1. 支払手形及び買掛金※4	65,596		56,408		-9,187	※4 支払手形及び買掛金 -9,187
2. 短期借入金 ※5	13,547		5,616		-7,930	・子会社の連結除外による減少 -5,700
3. 未払法人税等	26,169		32,789		6,619	
4. 繰延税金負債	31		59		27	※5 短期借入金 -7,930
5. 返品調整引当金	657		1,580		923	・子会社北海三共借入金返済 -2,500
6. 売上割戻引当金	2,204		2,322		118	・子会社の連結除外による減少 -3,800
7. 偶発損失引当金	3,379		3,345		-34	
8. その他 ※6	125,246		141,078		15,832	※6 その他 +15,832
流動負債合計	236,833	14.9	243,201	14.9	6,368	・欧州子会社DSEにおける提携に関する一時金等の未払金及び未払費用の増加 +10,800
II 固定負債						
1. 長期借入金 ※7	3,374		1,701		-1,673	※7 長期借入金 -1,673
2. 繰延税金負債	23,926		26,570		2,643	・子会社の連結除外による減少
3. 退職給付引当金 ※8	68,321		65,468		-2,853	※8 退職給付引当金 -2,853
4. 役員退職慰労引当金	3,140		2,800		-339	
5. 土壌浄化対策引当金	2,850		4,532		1,682	・子会社の連結除外による減少 -1,500
6. その他	8,540		6,168		-2,372	
固定負債合計	110,154	6.9	107,241	6.6	-2,912	
負債合計	346,987	21.8	350,443	21.5		
(少数株主持分)						
少数株主持分	11,609	0.7	—	—		
(資本の部)						
I 資本金	50,000	3.1	—	—		
II 資本剰余金	179,858	11.3	—	—		
III 利益剰余金	936,513	58.7	—	—		
IV その他有価証券評価差額金	80,254	5.0	—	—		
V 為替換算調整勘定	735	0.0	—	—		
VI 自己株式	△9,832	△0.6	—	—		
資本合計	1,237,529	77.5	—	—		
負債、少数株主持分及び資本合計	1,596,126	100.0	—	—		
(純資産の部)						
I 株主資本						
1. 資本金	—	—	50,000	3.1		
2. 資本剰余金	—	—	179,859	11.0		
3. 利益剰余金 ※9	—	—	981,690	60.0		※9 利益剰余金 +45,177
4. 自己株式	—	—	△9,909	△0.6		当期利益 +66,886 利益処分 -18,570
株主資本合計	—	—	1,201,640	73.5		
II 評価・換算差額等						
1. その他有価証券評価差額金	—	—	76,455	4.7		
2. 為替換算調整勘定	—	—	2,337	0.1		
評価・換算差額等合計	—	—	78,792	4.8		
III 少数株主持分	—	—	3,607	0.2		
純資産合計	—	—	1,284,040	78.5		
負債純資産合計	—	—	1,634,483	100.0		

損益計算書

	前中間連結会計期間 (自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日)			当中間連結会計期間 (自 平成18年4月1日 至 平成18年9月30日)			対前同	増減内訳
	金額 (百万円)		構成比 (%)	金額 (百万円)		構成比 (%)		
I 売上高※1		451,808	100.0		485,842	100.0	34,033	※1 売上高 +34,033
II 売上原価※2		141,296	31.3		138,022	28.4	-3,274	・米国子会社DSI・LPI決算期変更に伴う影響額 +31,500 ・上記要因除く海外3社 (DSI・LPI・DSE) +37,100 ・ゼファーマ連結による売上高増加 +10,200 ・連結除外 (和光堂、富士製粉、エフビー化工) -23,000
売上総利益		310,512	68.7		347,820	71.6	37,307	【ご参考】 特許料収入 12,000百万円
III 販売費及び一般管理費※3								※2 売上原価 -3,274 ・原価率 -2.9ポイント ・米国子会社決算期変更により、オルメテック等の低原価製品比率がアップ ・ブラビックス発売に伴う一時金収入、DSEにて販売権譲渡益を売上計上 (コストフリー)
1. 広告宣伝費及び販売促進費	34,596			51,840				※3 販売費及び一般管理費 +39,300 ・米国子会社2社の決算期変更 +17,400 ・子会社の連結除外 -5,300 ・米国子会社DSIでベニカーの利益シェア増 (販促費計上) ・ゼファーマ連結による増加 ・研究開発費 +11,000 (開発プロジェクト進行に伴う増加、糖尿病治療薬AJD101、抗癌剤TheraCIMなどの導入費増)
2. 給料・賞与及び手当	48,238			54,233				※4 営業外収益 +5,792 ・米国子会社2社の決算期変更 +1,500 ・米国子会社の資金運用益 +1,400 ・受取配当金の増 +1,300
3. 退職給付費用	3,618			3,704				
4. 研究開発費	72,528			84,939				
5. その他	71,185	230,166	50.9	74,748	269,466	55.5	39,299	
営業利益		80,345	17.8		78,353	16.1	-1,991	
IV 営業外収益※4								
1. 受取利息	1,357			3,967				
2. 受取配当金	1,300			2,631				
3. 金融派生商品収益	—			2,309				
4. その他	3,076	5,734	1.3	2,618	11,526	2.4	5,792	
V 営業外費用								
1. 支払利息	153			118				
2. たな卸資産処分損及び評価損	541			200				
3. 寄付金	514			406				
4. 貸倒引当金繰入額	—			197				
5. 金融派生商品費用	483			—				
6. 創立費償却額	361			—				
7. 持分法による投資損失	242			—				
8. その他	1,139	3,436	0.8	747	1,671	0.3	-1,765	
経常利益		82,642	18.3		88,208	18.2	5,566	
VI 特別利益※5								※5 特別利益 +20,725 ・和光堂他グループ外化に伴う株式処分益
1. 固定資産売却益	3,407			1,619				
2. 関係会社株式処分益	—			20,550				
3. 過年度研究開発費精算益	—			1,608				
4. 投資有価証券売却益	195			713				
5. 厚生年金基金代行返上益	163	3,766	0.8	—	24,492	5.0	20,725	
VII 特別損失※6								※6 特別損失 -3,090 ・経営統合に伴う一時費用 +7,000 ・非医薬事業の再編に伴う一時費用 +1,390 ・(前期) 小名浜工場等の遊休資産減損損失 -4,500 ・(前期) 偶発損失引当金繰入 -2,200
1. 固定資産処分損	2,320			1,605				
2. 事業統合関連損失	790			7,812				
3. 事業再編関連損失	474			1,770				
4. 土壌浄化対策引当金繰入額	—			1,685				
5. 減損損失	5,253			735				
6. 投資有価証券評価損	42			318				
7. 特別退職加算金	114			287				
8. 偶発損失引当金繰入額	2,240			13				
9. ビタミン独禁法関連損失	—	11,236	2.5	—	14,327	3.0	3,090	
税金等調整前中間 (当期) 純利益		75,172	16.6		98,373	20.2	23,201	
法人税、住民税及び事業税※7	27,439			52,312				法人税率 -2.6ポイント
法人税等調整額	△1,516	25,923	5.7	△20,883	31,428	6.4	5,504	・34.5%→31.9% ・米国/欧州子会社にて繰越欠損金の活用による税負担減等
少数株主損失		△201	△0.0		58	0.0	259	
中間 (当期) 純利益		49,450	10.9		66,886	13.8	17,436	

11.主要経営指標

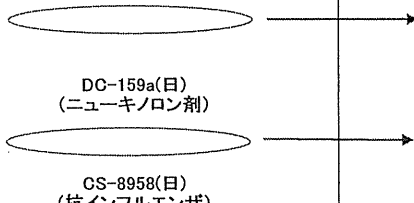
	2005年度		2006年度	
	上半期	年度末	上半期	年度予想
			5月予想	5月予想
設備投資（工事ベース）	17,800 百万円	30,100 百万円	13,500 百万円	30,600 百万円
減価償却費	19,500 百万円	44,400 百万円	13,650	27,300
純資産配当率（DOE）	1.5 %	2.9 %	19,000 百万円	40,000 百万円
配当性向（連結）	34.7 %	40.5 %	17,800	35,200
自己資本当期純利益率（ROE）	4.2 %	7.3 %	1.7 %	3.5 %
1株当たり利益（EPS）	67.5 円	119.4 円	32.7 %	69.4 %
1株当たり配当金	25.0 円	25.0 円	5.3 %	5.1 %
1株当たり純資産（BPS）	1,610.6 円	1,696.9 円	91.7 円	86.4 円
自己資本比率	77.3 %	77.5 %	30.0 円	64.5 円
期末発行済株式総数	729,089,904 株	729,052,296 株	1,756.3 円	
期末株価（終値）	2,325 円	2,685 円	78.3 %	
連結子会社数	61 社	57 社	729,027,291 株	
連結要員数	18,648 名	18,434 名	3,350 円	
			54 社	
			18,409 名	

12.単元株式の所有者別状況

	2005年9月末			2006年3月末			2006年9月末		
	株主数 (名)	所有株式数 (百万株)	構成比	株主数 (名)	所有株式数 (百万株)	構成比	株主数 (名)	所有株式数 (百万株)	構成比
政府及び地方公共団体	1	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%
金融機関	178	314	42.9%	185	340	46.5%	178	341	46.5%
証券会社	45	27	3.7%	44	7	1.0%	40	10	1.4%
その他の法人	672	49	6.7%	635	49	6.7%	593	48	6.6%
外国法人等	603	240	32.8%	569	236	32.3%	600	241	33.0%
個人・その他	53,479	101	13.9%	55,244	99	13.6%	49,077	91	12.5%
自己株式	0	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%
合計	54,978	733	100.0%	56,679	733	100.0%	50,490	733	100.0%

13.研究開発の状況

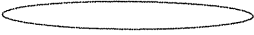
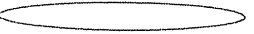
第一三共グループ研究開発パイプライン (ステージ別)

領域	主な既存品	Phase1準備中、前臨床	Phase1
循環器	Pravachol/Mevalotin Benicar/Olmetec Welchol メバロチン ハナルシン オルメテック アーチスト サンリズム エースコール ハンフ コバシル リバロ カルプロック	HGF遺伝子プラスミド(日) (虚血性心疾患)	CS-747(日) (抗血小板剤) DZ-697b(米/欧/日) (抗血小板剤) HGF遺伝子プラスミド(米/欧) (虚血性心疾患) CS-3030(米/欧) (経口抗Xa剤)
糖代謝	ファステック	CS-011(日) (グリタゾン系) AJD101(日) (インスリンシグナル経路活性化)	SUN E7001(日) (GLP-1) AJD101(米/欧) (インスリンシグナル経路活性化)
感染症	LEVAQUIN/Tavanic FLOXIN Otic BANAN クラビット カルヘニン ハナシ		DC-159a(米/欧) (ニューキノロン剤) DX-619(米/欧) (ニューキノロン剤) DX-619(日) (ニューキノロン剤) CS-758(米/欧) (抗真菌) CS-8958(米/欧) (抗インフルエンザ)
癌	camptosar トボテシン クレスチン	DE-766(日) (ニモズマブ/抗EGFR抗体)	DJ-927(日) (癌化学療法剤/タキサン誘導体) CS-7017(米/欧)(PPAR γ 作動薬) CS-1008(米/欧)(抗DR5抗体)
免疫・アレルギー	シムレック	DW-908e(日) (VLA-4阻害剤)	DW-908e(米/欧) (VLA-4阻害剤) CS-0777(米/欧) (免疫抑制剤)
骨・関節	ロキソニン モービック ミルタックス	OCIF(米/欧) (骨粗鬆症治療剤)	
その他	Venofor Evoxac オムニパーク クレメジン ザンタック オムニスキャン フエロン エボザック ユリーフ	SUN N8075(日) (脳梗塞急性期治療剤) CS-011(日) (ドライアイ/参天に導出)	SUN N8075(米/欧) (脳梗塞急性期治療剤) 

☆効能追加、剤形追加等

2006年7月の第1四半期決算発表以降の変更

- 新規追加(アンダーライン) : AJD101(米/欧/日)、DE-766(日)、DL-404(日)
- ステージの変更 : DD-723(日)、DU-6859a(日)、CS-1401E(日)、CS-600G(日)、SUN11031(米/欧/日)、
- 開発中止など : DJ-927(米/欧/日)[Phase2a試験(欧米)を総合的に評価した結果、既存の化学療法剤に対して
: DW-908e(米/欧/日)[米国におけるクリニカルホールド解除の目処が未定のため臨床試験中断]
: CS-3030(米/欧)[製品ポートフォリオ戦略の観点から開発中止]
: SUN E3001(日)[Phase2a試験において安全性・有効性が確認されているが、導出先である中外製薬の

Phase2	Phase3	申請/承認、上市
DU-176b(米/欧/日)(経口抗Xa剤) HGF遺伝子プラスミド(米/欧)(末梢性血管疾患) CS-9803(米/欧)(テロトPKC阻害剤) SUN 4936h(米/欧) (急性心不全治療剤/アステラスファーマUSに導出) ☆CS-866RN(日)(慢性糸球体腎炎) ☆CS-866CMB(日) (オルメサルタンとヒドロクロチアジドの配合剤)	CS-747(米/欧) (抗血小板剤) ☆CS-8663(米/欧) (オルメサルタンとアムロジピンの配合剤) HGF遺伝子プラスミド(日) (末梢性血管疾患) ☆CS-866DM(日) (糖尿病性腎症) ☆CS-866AZ(日) (オルメサルタンとアゼルニジヒンの配合剤)	
CS-011(米/欧) (グリタゾン系) CS-917(米/欧) (糖新生阻害)	☆WelChol DM(米) (糖尿病)	
DU-6859a inj(米) (ニューキノロン剤/注射) CS-023(米/欧) (カルバペネム系抗生物質/ロシュに導出) CS-023(日) (カルバペネム系抗生物質)		SUN A0026(北米) (ペネム系抗生物質/ レプリダインが申請中) DF-098(日) (Hibワクチン/申請中) DU-6859a oral(日) (ニューキノロン剤/経口/申請中)
-DJ-927(米/欧)- (癌化学療法剤/タキサン誘導体)		
CS-712(日) (スギ花粉症)		
CS-706(米/欧) (COX-2阻害剤) SUN E3001(日) (骨粗鬆症治療剤/中外に導出)	☆CS-600G(日) (ロキソプロフェンゲル製剤/PS準備中)	
SUN N4057(米/欧) (脳梗塞急性期治療剤) CS-088(米/欧/日) (緑内障/参天と共同開発) KMD-3213(中国) (排尿障害治療剤) SUN11031(日) (神経性食欲不振症) SUN11031(米/欧) (カヘキシア)	SUN0588r(米) (高フェニルアラニン血症/ バイオマリンに導出)  SUN Y7017(日) (軽度・中等度および 高度アルツハイマー型認知症) ☆DL-8234(日) (フェロン効追/O型慢性肝炎/ リバビリン併用療法)	DD-723(日) (超音波造影剤/承認) ☆CS-1401E(日) (麻酔用鎮痛/申請中) DL-404(日) (ギャバロン髄注/小児効追/申請中)

DC-159a(米/欧)、DX-619(日)

明らかな有用性を示すことが困難と判断、開発を中止し、最優先課題から除外]

開発ポートフォリオの見直しに伴い、共同開発契約を解消]

第一三共グループ 研究開発パイプライン(1)

領域	開発番号	一般名	剤形、経路	適応予定、剤名等	オリジン
循環器	CS-747	プラスグレル	経口剤	急性冠症候群 / 抗血小板剤	三共、 宇部興産
	—	HGF遺伝子プラスミド	注射剤	末梢性血管疾患、虚血性心疾患 / HGF遺伝子医薬品、血管新生療法	アンジェスMG (販売提携)
	DU-176b	—	経口剤	心房細動に伴う心原性脳梗塞の予 防、静脈血栓塞栓症の予防・治療 / 経口抗Xa剤	第一製薬
	CS-9803	—	注射剤	急性心筋梗塞 / デルタPKC阻害剤	カイ社
	☆CS-8663	オルメサルタン メドキシミル、 ベシル酸アムロジピン	経口剤	高血圧症 / アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤、 カルシウム拮抗剤	三共
	☆CS-866DM	オルメサルタン メドキシミル	経口剤	糖尿病性腎症 / アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤	三共
	☆CS-866RN	オルメサルタン メドキシミル	経口剤	慢性糸球体腎炎 / アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤	三共
	☆CS-866AZ	オルメサルタン メドキシミル、 アゼルニジピン	経口剤	高血圧症 / アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤、 カルシウム拮抗剤	三共
	☆CS-866CMB	オルメサルタン メドキシミル、 ヒドロクロロチアジド	経口剤	高血圧症 / アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤、 利尿剤	三共
糖代謝	SUN 4936h	カルペリチド (遺伝子組換え)	注射剤	急性心不全 / α型ヒト心房性ナトリウム 利尿ペプチド製剤	第一アスピオ ファーマ
	CS-011	リボグリタゾン	経口剤	糖尿病 / インスリン抵抗性改善剤	三共
	CS-917	—	経口剤	糖尿病 / 糖新生阻害剤	三共、 メタベイス
	☆WelChol DM	塩酸コレセバラム	経口剤	糖尿病 / 胆汁酸吸着剤	ジェンザイム

☆効能追加、剤形追加等

開発地域	開発会社 (自社グループ/ 共同開発)	ステージ (申請年月)	備 考
米欧	共同開発 (イーライリリー)	P-III	・非臨床試験において、他剤より血小板凝集抑制作用が強く、また作用発現が早いことが認められている血小板凝集阻害薬である ・臨床試験において、血小板凝集抑制作用に個人差が少ないことが認められている ・米欧はイーライリリーと共同開発
日	自社	P-I	
米欧	アンジェスMG	P-II (末梢)	・肝細胞増殖因子(HGF:Hepatocyte Growth Factor)の遺伝子を筋肉内投与することにより、病巣局所でHGFを産生させ、血管新生を促進する再生医療法である。治療が困難な「末梢性血管疾患(閉塞性動脈硬化症、パージャヤー病)」および「虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症)」などの新規治療法として期待される ・アンジェスMG社と提携し、日・米・欧における独占的販売権を取得、アンジェスMG社による本剤の開発を支援し、再生医療への国際的貢献を図る
		P-I (心臓)	
日		P-III (末梢)	
		P-I 準備中 (心臓)	
米欧	自社	P-II	・抗Xa作用を有し、ヒトにおける高い経口吸収性が確認されている抗凝固剤である ・ヒト経口投与試験において、トロンビン生成が用量相関的に抑制されることが確認されている
日	自社	P-II	
米欧	共同開発 (カイ社)	P-I / II	・急性心筋梗塞患者における血管形成術後の再灌流障害を抑制する薬剤としてファーストインクラスとなる可能性を有する
米欧	自社	P-III	オルメサルタンとCa拮抗剤(アムロジピン)との配合剤
日	自社	P-III	・ORIENT試験実施中 ・効能追加
日	自社	P-II	効能追加
日	自社	P-III	オルメサルタンとCa拮抗剤(アゼルニジピン)との配合剤
日	自社	P-II	・発売: 米国2003年9月、欧州2005年6月 ・オルメサルタンと利尿剤(ヒドロクロロチアジド)との配合剤
米欧	アステラス ファーマ US	P-II	・α型ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチドで、血管拡張作用および利尿作用を併せ持ち、日本においては既に1995年に急性心不全の適応を取得、上市された。以来、着実に成長し、本領域の中心的薬剤となっている ・米欧で、アステラス ファーマ USに導出
米欧	自社	P-II	・新規グリタゾン系の糖尿病治療薬であり、非臨床試験において他剤より強いPPARγ活性化作用が認められた ・臨床試験において、他剤を上回る用量依存的な糖・脂質代謝改善が確認された
日	自社	P-I 準備中	
米欧	自社	P-II	肝臓での糖新生をつかさどる酵素であるフルクトース1-6ビスフォスファターゼを阻害する糖尿病薬である
米	自社	P-III	・効能追加 ・通常治療で効果のない2型糖尿病患者に対し、食事療法、運動療法に付加的に用いられることが期待される ・臨床試験において、インスリン併用患者のHbA1cレベルの低下が確認されている

【原則P-II以降の課題を掲載】

第一三共グループ 研究開発パイプライン(2)

領域	開発番号	一般名	剤形、経路	適応予定、剤名等	オリジン
感染症	DF-098	乾燥ヘモフィルスb型 結合体ワクチン	注射剤	インフルエンザ菌b型による 感染症の予防	サノフィパスツール (合併会社と販売 提携)
	DU-6859a	シタフロキサシン水和物	注射剤 経口剤	細菌感染症 / ニューキノロン剤	第一製薬
	CS-023	—	注射剤	細菌感染症 / カルバペネム系抗生物質	三共
	SUN A0026	ファロペネム メドキシミル	経口剤	細菌感染症/ペネム系抗生物質	第一アスピオ ファーマ
免疫 アレルギー	CS-712	—	経口剤	スギ花粉症(経口減感作)	三共
骨・関節	CS-706	—	経口剤	消炎鎮痛剤	三共
	☆CS-600G	ロキソプロフェン ナトリウム	ゲル製剤	消炎鎮痛剤	三共
	SUN E3001	(慣用名) ヒト副甲状腺ホルモン	経鼻剤	骨粗鬆症	第一アスピオ ファーマ
その他	DD-723	—	注射剤	超音波造影剤	GEヘルスケア
	SUN Y7017	メマンチン塩酸塩	経口剤	アルツハイマー型認知症/ NMDA受容体拮抗剤	メルツ
	SUN N4057	—	注射剤	脳梗塞急性期/ セロトニン1A受容体アゴニスト	第一アスピオ ファーマ
	KMD-3213	シロドシン	経口剤	前立腺肥大症に伴う排尿障害改善/ α1A受容体選択的拮抗剤	キッセイ薬品
	SUN11031	(慣用名) ヒトグレリン	注射剤	カヘキシア 神経性食欲不振症	第一アスピオ ファーマ
	CS-088	オルメサルタン	点眼剤	緑内障/アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤	三共
	☆DL-8234	インターフェロン-β	注射剤	C型慢性肝炎 (リバビリンとの併用療法)	東レ
	☆CS-1401E	クエン酸フェンタニル	注射剤	麻酔用鎮痛剤	ヤンセン
	SUN0588r	塩酸サプロプロテルリン	経口剤	高フェニルアラニン血症	第一アスピオ ファーマ

☆効能追加、剤形追加等

開発地域	開発会社 (自社グループ/ 共同開発)	ステージ (申請年月)	備 考
日	サノフィバスター ル第一ワクチン	申請済 (03.3)	サノフィバスター社により創製され、当社との合弁会社において開発、承認申請中の日本初の小児用インフルエンザ菌b型(Hib)ワクチンである。Hibが主たる起炎菌である小児細菌性髄膜炎の発生率低下への貢献が期待される
米	自社	P-II	・幅広い抗菌スペクトラムと強力な抗菌力を有し、一般感染症のみならず難治性感染症に対する効果が期待できる広範囲のニューキノロン剤である
日	自社	申請済 (06.9)	・日本では、呼吸器感染症および尿路感染症を中心に経口剤で開発中である ・米国では、重症および耐性菌感染症を対象に注射剤で開発中である
米欧	ロシュ	P-II	・薬剤耐性菌を含む各種病原性細菌に対する幅広い抗菌スペクトラムと強力な活性を有するカルバペネム系の抗生物質である
日	自社	P-II	・他のカルバペネムよりも長い血中半減期を有する ・米欧でロシュに導出
北米	レプリダイン	申請済 (05.12)	・世界初のペネム系経口抗生物質として1997年に日本において発売された一般名「ファロペネムナトリウム」のプロドラッグである。経口投与後に消化管から良好に吸収され、生体内でファロペネムに変換されて各種細菌に対して抗菌作用を発揮する。その抗菌作用は強力かつ殺菌的である ・北米でレプリダインに導出、販売はフォレスト ・レプリダインが2005年12月に米国FDAに4つの適応症について承認申請、2006年10月FDAより非承認の通知を受け追加臨床試験の実施等について協議中
日	自社	P-II	林原生物化学研究所と技術提携
米欧	自社	P-II	・COX-2阻害剤 ・PK/PD試験の結果より、1日1回投与が示唆されている
日	自社	P-III	・ロキソプロフェンナトリウム水和物含有経皮吸収型軟膏剤 ・東興薬品工業へ製造委託
日	自社	P-II	・ヒト副甲状腺ホルモン[hPTH(1-34)]の経鼻投与製剤。 ・PTHは、カルシウム代謝調節ホルモンの1つであり、既存の骨粗鬆症治療剤が骨吸収を抑制することで作用を発現するのに対し、骨形成を促進する作用を持つ新しいタイプの骨粗鬆症治療剤となることが期待される。他社自己注射剤が米国で承認済み。 ・中外製薬に導出 ・中外製薬(導出先)により実施されたPhase2a試験において安全性・有効性が確認されている。しかし、中外製薬の開発ポートフォリオの見直しにより開発・販売権返還の申し入れがあり、2006年9月共同開発契約を解消
日	自社	承認 (06.10)	・静注で肝臓造影効果を示す超音波造影剤である ・肝腫瘍の早期発見、治療効果の判定がベツトサイドで簡便に実施可能となることが期待される ・2006年10月20日承認
日	自社	軽度・中等度 P-III 高度 P-III	・既存のアセチルコリンエステラーゼ阻害剤とは異なり、グルタミン酸受容体の1つであるNMDA受容体への拮抗作用を有するアルツハイマー型認知症治療剤である ・神経細胞保護作用による認知症症状の進行抑制が期待される ・日本において「高度アルツハイマー型認知症」と「軽度・中等度アルツハイマー型認知症」に対するPhaseIIIを実施中である
米欧	自社	P-II	神経細胞のセロトニン1A受容体を活性化することにより、脳虚血によって惹起されるグルタミン酸の過剰遊離と神経細胞の興奮(脱分極)を抑制し、虚血による神経細胞死を抑制する。その結果、脳梗塞急性期における梗塞領域を最小限に抑え、患者の予後の重症度の軽減作用を示すことが期待される
中国	自社	P-II	・前立腺肥大に伴う排尿障害改善剤である ・前立腺の α 1A受容体をブロックし尿道の緊張を弛緩させ、尿道抵抗を改善する。既存薬に比べ α 1A受容体に対する選択性が高いため、循環系への副作用が少なく、また自覚症状の早期改善が期待される
米欧	自社	P-II	現在までに発見されている摂食行動に関与するホルモンの中で、グレリンは唯一の末梢性の内因性摂食亢進因子であり、あわせて強力な成長ホルモン分泌促進作用を有する。国内外で、食欲不振症、種々のかきキアに対する治療薬として研究開発を行っている
日	自社	P-II	
米欧	共同開発 (参天製薬)	P-II	参天製薬と共同開発
日	共同開発 (東レ)	P-III	・ α 型に比較して抑うつ等の中枢性副作用、脱毛の発現が少ない天然型のインターフェロン- β 製剤である ・「C型慢性肝炎(リパビリンとの併用療法)」に関し、効能追加のためのPhaseIIIを実施中である
日	—	申請済 (06.9)	・医師主導型試験 ・オピオイド性鎮痛薬クエン酸フェンタニル(フェンタネスト)の小児における用法用量追加
米欧	バイオマリン	P-III	・国内では、BH4欠乏型の異型高フェニアラニン血症の治療薬として上市されている。 ・最近の研究でフェニアラニン水酸化酵素変異型の中にBH4反応性の高フェニアラニン血症の存在が明らかになった ・米国バイオマリンに導出

【原則P-II以降の課題を掲載】

14. 連結子会社一覧

第一三共 連結子会社 1社

会 社 名	所 在 地	資本金又は出資金	持株比率(%)	主 な 事 業
ゼファーマ(株)	日本	300百万円	100	一般用医薬品の販売

三共グループ 連結子会社 30社

会 社 名	所 在 地	資本金又は出資金	持株比率(%)	主 な 事 業
三共有機合成(株)	日本	300百万円	93.4	塩化ビニール加工用安定剤、医薬品の製造・販売ならびに医薬品、化粧品 の受託加工・包装
日本乳化剤(株)	日本	300百万円	100	界面活性剤および化成品の製造・販売
三共化成工業(株)	日本	65百万円	100	化成品、医薬品およびその中間体、飼料添加剤、動物薬、農薬、廃水処理 剤等の製造・販売
北海三共(株)	日本	331百万円	80.0	農薬、防疫用薬剤、人工培土、植物バイオ種苗の製造・販売
目黒化工(株)	日本	40百万円	100	食品、医薬品、化粧品等の受託加工・包装、硝子製品の製造・販売
(株)科学技術研究所	日本	20百万円	100	生体試料の臨床検査および生物学的検査ならびにその受託業務
三共エール薬品(株)	日本	96百万円	100	医薬品、動物薬、診断薬等の製造・販売
三共アグロ(株)	日本	350百万円	100	農薬等の製造、販売、輸出入
宇都宮化成工業(株)	日本	20百万円	三共アグロ 100	農薬および防疫用薬剤の受託加工
三共ライフテック(株)	日本	300百万円	100	動物用医薬品、食品添加物、工業薬品等の製造、販売、輸出
第一三共ヘルスケア(株)	日本	10百万円	三共 第一製薬 66.7 33.3	一般用医薬品の販売
第一三共リアルエステート GmbH	ドイツ	5.1百万EUR	100	不動産管理
第一三共リアルエステート GmbH & Co. オブジエクト・ ミュンヘン KG	ドイツ	5千EUR	第一三共 リアルエステート 94	製造設備賃貸
第一三共ヨーロツパ GmbH	ドイツ	16百万EUR	100	医薬品の開発・製造・販売
第一三共UK LIMITED	イギリス	19.5百万円	DSE 100	医薬品の販売
第一三共スペイン S.A.	スペイン	120千EUR	DSE 100	医薬品の販売
第一三共イタリア S.p.A.	イタリア	120千EUR	DSE 100	医薬品の販売
第一三共ポルトガル LDA.	ポルトガル	349千EUR	DSE 100	医薬品の販売
第一三共オーストリア GmbH	オーストリア	18千EUR	DSE 100	医薬品の販売
第一三共スイス AG	スイス	3百万CHF	DSE 100	医薬品の販売
第一三共オランダ B.V.	オランダ	18千EUR	DSE 100	医薬品の販売
第一三共ベルギー N.V.-S.A.	ベルギー	62千EUR	DSE 100	医薬品の販売
第一三共アルトキルヒ SARL	フランス	457千EUR	DSE 100	医薬品の製造
第一三共ドイツ GmbH	ドイツ	40千EUR	DSE 100	医薬品の販売
第一三共フランス S.A.S.	フランス	2,182千EUR	DSE 100	医薬品の販売
第一三共 INC.	USA	24.9百万US\$	三共 第一製薬 80.8 19.2	医薬品の研究・開発・販売
ルイトボルト・ファーマシューティカルス INC	USA	0.2百万US\$	DSI 100	医薬品および動物薬の製造・販売
中日合成化学股份有限公司	台湾	144百万NT\$	三共 日本乳化剤 48.6 3.4	乳化剤および界面活性剤の製造・販売・輸出入
台湾三共製薬股份有限公司	台湾	605百万NT\$	100	医薬品の開発・製造・販売
上海三共製薬有限公司	中国	53,000千US\$	100	医薬品の研究・開発・製造・販売

第一製薬グループ 連結子会社 21社

会 社 名	所在地	資本金又は出資金	持株比率(%)	主 な 事 業
第一化学薬品(株)	日本	1,275百万円	100	医薬品・試薬製造販売
(株)第一ラジオアイソトープ研究所	日本	1,400百万円	100	放射性医薬品製造販売
第一ファルマテック(株)	日本	100百万円	100	医薬品等の製造
第一ファインケミカル(株)	日本	2,276百万円	100	ファインケミカル品ならびに医薬品の製造・仕入・販売
ダイイチ・ファインケミカル・ヨーロッパ・ゲート・エム・ペー・ハー	ドイツ	511千EUR	DFK 100	ファインケミカル製品及び関連製品の輸出入・販売及び仲介業務
埼玉第一製薬(株)	日本	1,005.5百万円	100	医薬品製造販売
第一アスピオファーマ(株)	日本	11,000百万円	100	医薬品の研究・開発・製造・販売
ダイイチ・アスピオ・ファーマシューチカルズ・インコーポレイテッド	USA	1US\$	ASB 100	医薬品の臨床開発
ダイイチ・アスピオ・ホールディングス インコーポレイテッド ※清算手続準備中	USA	6,000千US\$	ASB 100	DAIAMEDのホールディングカンパニー
ダイイチ・アスピオ・メディカル・リサーチ・ラボラトリーズ リミテッド・ライアビリティ・カンパニー ※清算手続準備中	USA	3,000千US\$	ASBH 100	医薬品の探索研究
第一地所(株)	日本	100百万円	100	不動産賃貸
第一物流(株)	日本	50百万円	100	物流サービス
第一メディカル(株)	日本	50百万円	100	医薬品プロモーション用関連資材の企画、作成
関東第一サービス(株)	日本	10百万円	100	研究開発施設の設備管理、動物飼育及び警備・清掃業務等のサービス
ダイイチ・ファーマシューチカルズ・ユーケー・リミテッド	イギリス	400千£	100	医薬品開発
第一制薬(北京)有限公司	中国	63,800千US\$	100	医薬品開発・製造・販売
ダイイチ・ファーマシューチカル・アジア・リミテッド	香港	3,000千HK\$	100	医薬品販促
ダイイチ・ファーマシューチカル・タイワン・リミテッド	台湾	80,000千NT\$	100	医薬品製造・販売
韓国第一製薬(株)	韓国	3,000百万WON	70	医薬品販売
ダイイチ・ファーマシューチカル・(タイランド)・リミテッド	タイ	10,000千BAHT	100	医薬品・化成品等の輸入・販売・仲介
ラボラトワール第一サノフィ・アベンティス	フランス	154千EUR	51	医薬品開発・登録

MEMO



Daiichi-Sankyo

第一三共株式会社



将来の見通しに関して

当社では、東京証券取引所に提出する収益予想に加えて、投資家や証券アナリストの皆様が自ら当社の業績に関する予想を立てられるよう、見通しに関するガイダンスを提供する場合があります。また、ご挨拶、講演、質疑応答、当社の発行する書面、ホームページ記載内容等には現在の計画、見通し、戦略などが含まれる場合があります。

何れの場合におきましても、歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また現在入手可能な情報から得られた当社の判断にもとづいております。従いまして、当社の業績、企業価値等を検討されるに当たりましては、これら見通しのみに全面的に依拠されることは控えて頂けるようお願い致します。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1) 当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2) 為替レート、金利等の変動、(3) 急速な技術革新が進む創薬分野において、タイムリーに研究・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。



私たちの新しい挑戦が始まります。

146 days



第一三共株式会社